

## 株式会社 エマオス京都

http://www.emaus-kyoto.com/

所在地 京都府京都市右京区西院西田町26

TEL&amp;FAX 075-323-6113 075-323-6115

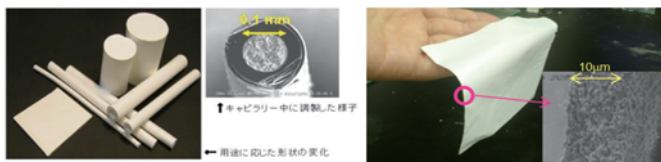
代表者 代表取締役 石塚 紀生 創年月日 2004年3月

資本金 2,000万円 従業員数 5人

## 事業内容

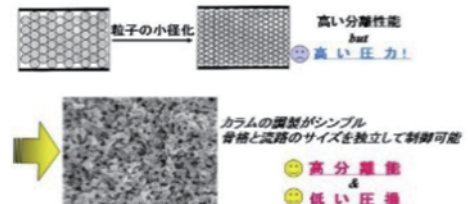
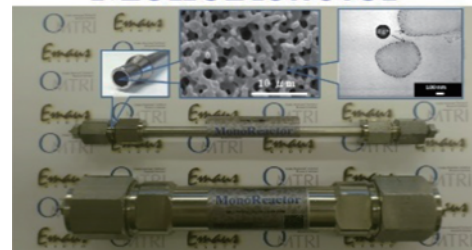
株式会社エマオス京都は、スポンジのような、マイクロメートル領域の貫通孔と骨格が連続的に繋がった一体型の構造を有する多孔性ポリマー、すなわちポリマーモノリス材料の製造技術を有し、モノマーの種類を変化させることにより、素材に親水性・疎水性の性質をはじめとする機能性を変化させた多性能のモノリス構造の材料の開発に取り組んでいる。モノリス構造を制御することができ、0.1～数十μmの細孔サイズのコントロールを実現、また、シート状、パイプ状、円柱状など形状も自由に製造できる。

製造されるポリマーモノリス材料は、高速液体クロマトグラフィー用カラムやキャピラリーカラム等の分離媒体、リチウムイオン電池用セパレータ、次世代フロー有機合成用リアクター等、様々な用途へ応用されている。



ポリマーモノリス材料の様々な形状

## モノリス型カラムの利点

次世代フロー有機合成用  
ポリマーモノリスリアクター  
MonoReactor

## 知的財産活用事例

株式会社エマオス京都は、多種多様な分野への材料開発を行っている。そのために、京都大学、京都工芸繊維大学等の周辺大学との共同研究・開発を継続し、積極的に権利化することに取り組んでいる。

また、取得した特許はマッチング会等を通じて知り合った連携先企業に許諾し、連携先企業との協業という形で製品開発・販路拡大を行うことにより産業界でのネットワークを構築し、事業の継続・拡大につなげており、その成果の1つとして、ポリマーモノリス材料が次世代フロー有機合成用リアクター「MonoReactor」に応用されている。

## 知的財産の創出や活用に関する取組

保有特許は自社製品を守る為にだけ活用するのではなく、海外製品に対抗するため、企業の連携体を構築し、企業の連携体から技術を創出するためのツールとして活用している。

すなわち、保有特許を積極的に連携先企業へ許諾し、協業の形式を進めことにより、海外にも通用する技術・製品の創出、幅広い事業展開、および製品開発のスピードアップを図る戦略をとっている。また、これらの戦略は、自社内だけで判断するのではなく、相談できるかかりつけ弁理士のアドバイスを受けつつ、実行に移すようにしている。

## 起業を目指す人への知的財産に関するアドバイス

研究開発型企業のステージがアーリーである場合、知的財産の取得は非常に重要なことであるが、社内に知財専門員を確保する事や、知財戦略にかかる費用を確保することは難しい。

また逆に、時間と費用を十分にかけずに出願した特許は、防御力に不安が残り、後発技術に抑え込まれる危険もある。

したがって、有効なアウトソーシングを構築することが重要であり、自社技術を十分に理解し、業界に明るく戦略を練れる、知人からの紹介などを通じたかかりつけの弁理士との出会いは非常に重要であり、同業者からの紹介を受けるのが有効である。